

## 帰化植物の話

## ーカワリミタンポポモドキとブタナー

全国農村教育協会 廣田伸七

キク科のカワリミタンポポモドキとブタナはともに帰化植物で、どちらも別名がタンポポモドキと呼ばれているように形態がよく似ていて間違い易いので両種の違いを探ってみた。

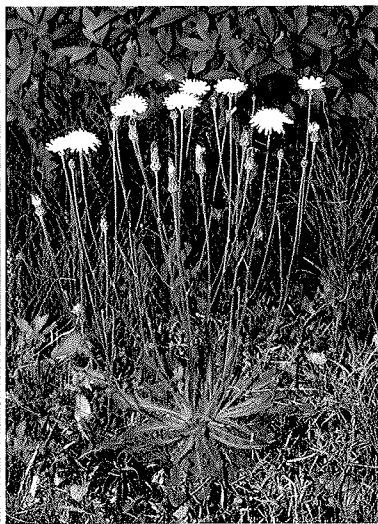
カワリミタンポポモドキ (*Leontodon taraxacoides* M érat) はヨーロッパ原産の帰化植物で、市街地の造成地、道端や空き地に生育する多年草。葉はタンポポのように根生しロゼット状になり、長さは10～15cm、倒披針形で羽状に浅裂し表裏に剛毛が密生し、この毛の先端は2～3に短く分岐している。花茎は数本根生し剛毛があって高さ10～20cmで先端に黄色の頭花を1個つける。頭花は径約3cm。花期は7～9月。1970年代に東京の八王子市で採集され、現在は各地で散見されている。

ブタナ (*Hypochaeris radicata* L.) はヨーロッパ原産の帰化植物で、空き地や堤防、土手、道端などに生育する多年草。場所によっては道路の中央分離帯にしばしば大群落をつくっている。葉は根生してロゼット状になり、長さ5～15cm、倒披針形で羽状に浅裂、表裏と縁に剛毛がある。花茎は多数出で無毛で高さ約80cm、上部で分岐してその先端に径約3cmの黄色の頭花を1個つける。花期は6～9月。1930年代に札幌や神戸で確認されて現在は全国に広まっている。

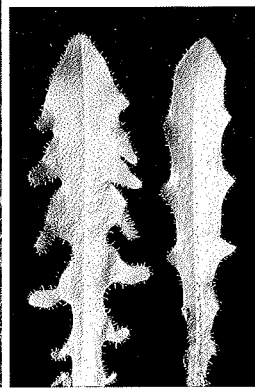
こう書くと形態はほぼ同じで見分けは難しいが相違点を下表に示したので写真と見比べながら判断されたい。

(注) 幼苗の写真は左頁(38頁)に掲載したので参照。

| 草種<br>部位 | カワリミタンポポモドキ                                                                  | ブ タ ナ                                                                            |
|----------|------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 葉        | 根生しロゼット状。葉の長さがブタナより長く、幅はやや細い。葉数も多い。羽状切れ込みが規則的。質はブタナより薄く、毛もやや少ない。毛の先端が2～3に分岐。 | 根生しロゼット状。葉の長さがカワリミタンポポモドキより短く、幅は広い。羽状切れ込みが不規則。質はやや厚く、毛はカワリミタンポポモドキよりも多く、特に縁毛が多い。 |
| 花茎       | 本数が少ない。上部で分岐しない。剛毛がある。                                                       | 本数が多い。上部で分岐する。毛はない。                                                              |



▼  
左、ブタナ  
右、カワリミタンポポモドキ



▲カワリミタンポポモドキ、花期 ▲ブタナ、花期

▲葉の比較